

講義コード	1053660001
講義名称	教育学概論 01<春>
科目英文名	Introduction to Pedagogy
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	0EDU1410
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 5 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名			
伊藤 潔志			

授業形態	講義	実習	アクティブラーニング
------	----	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	

講義・演習概要	教育は誰でも経験しており、誰でも教育について語るすることができます。しかし、あらためて「教育とは何か？」と問われると、答えに窮してしまいます。この講義では、「教育とは何か？」という問いを念頭に置きつつ、教育理念を歴史的・思想的に考察し、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変遷してきたのかを考えていきます。
学習（到達）目標	① 教育の基本概念を歴史的・思想的に理解する。 ② 教育史に関する基本的知識を身につけ、それと教育理念との関係を理解する。 ③ さまざまな教育思想を理解し、それと教育理念との関係を理解する。 ④ 教育の現状と課題とを理解し、あるべき教育について考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育と教育学
第3回	教育の基礎理論①：教育の場所
第4回	教育の基礎理論②：教育の用語
第5回	教育の基礎理論③：教育と人間
第6回	教育の基礎理論④：教育の意義
第7回	教育の基礎理論⑤：遺伝と環境
第8回	教育の基礎理論⑥：教育の目的
第9回	教育の基礎理論⑦：目的と意図
第10回	近代の教育思想①：実学主義
第11回	近代の教育思想②：啓蒙主義
第12回	近代の教育思想③：新人文主義、ペスタロッチ
第13回	近代の教育思想④：ヘルバルト、フレーベル
第14回	現代の教育理論
第15回	現代の教育改革、まとめ（今後の教育を考える）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は「レポート」（30%）と「授業課題」（70%）を基に総合的に判断する。 ・提出物はすべてWebClassを通して提出する。 ・2回のレポート提出と10回以上の出席を単位認定の基本条件とする。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	伊藤潔志	哲学する教育原理	大学オンライン販売	978-4909378118	教育情報出版	

参考文献	<p>① 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房、2020年。</p> <p>② 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東山書房、2019年。</p> <p>※その他、必要に応じて資料を配布する。</p>
事前および事後学習の指示	<p>事前学習：授業内で指示された文献の所定の箇所を講読する。</p> <p>事後学習：授業資料をよく読む。</p>
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	15E3910000
講義名称	ソーシャルワーク論ⅢA <春>
科目英文名	Social Work IIIA
開講責任部署	社会学部 ソーシャルデザイン学科
代表ナンバリングコード	SOCW3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 5 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
塩田 祥子

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 研修活動、社会福祉社会での活動をもとに、現場の実情に応じた授業を実施する	実務経験のある教員による授業② 障害者相談センターや、精神障害者領域におけるボランティア活動の経験を活かし、現場のリアルを伝えていく
	演習		

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	ディスカッション(話し合い)	その他 講義中における学生への問いかけ、近い席者同士の話し合い。振り返りシートへの書き込み。

講義・演習概要	制度としての社会福祉を具体的に実践するための実践方法であるソーシャルワークについて、その基礎的な理解と実践活動にとって重要と思われる様々な知識の獲得を目的としている。具体的には、ソーシャルワークにおいて基本となる「人と環境との交互作用」の概念について、人と環境が相互に影響し合うという「全体的にとらえる見方」として、理解を促す。またその視点に基づいて、ソーシャルワークの対象や援助関係および展開過程を理解することで、実践活動としてのイメージ化ができることをめざす。利用者とは会うインテークから援助の終結にいたるまでの一連の援助過程を基本的な専門的技術として理解する。
学習(到達)目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論との交互作用に関する理論について理解する。 ・援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 ・相談援助の過程に係る知識と技術について理解する。 ・相談援助における事例分析の意義や方法、相談援助の実際について理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念
第2回	実践モデルとアプローチ①
第3回	実践モデルとアプローチ②
第4回	実践モデルとアプローチ③
第5回	ソーシャルワークのための面接技術の実際①
第6回	ソーシャルワークのための面接技術の実際②
第7回	ソーシャルワークのための面接技術の実際③
第8回	アウトリーチによる相談援助の方法
第9回	アウトリーチによる相談援助の方法
第10回	スーパービジョンとコンサルテーション
第11回	コンサルテーションとネットワーキング①
第12回	コンサルテーションとネットワーキング②
第13回	情報管理と情報通信技術

第14回	社会資源の活用・調整・開発
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	30%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱを踏まえた講義としてのソーシャルワーク論の集大成であることを意識する。特に、演習、実習内容、日常生活に関連させたコメントシートの提出を求める。 授業最終日にテストを行う。
---------------	--

事前および事後学習の指示	事前学習では、新聞記事等を活用し、社会情勢を調べる。授業後、配布資料を用いて授業内容の確認をする
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	社会・生活

【社会人の方へ】社会福祉士国家資格受験のための科目ですので、専門的な内容となります。